

3

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校

学校・活動
の概要

学校名：茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校
所在地：茨城県東茨城郡城里町春園1634
全校生徒数：92名（1年生:34名、2年生:11名、3年生:29名）
活動発足時期：H28年（2016年）
活動形態：毎年2年生が「総合的な学習」の時間で取り組む活動している生徒数：31名

●特徴

- 町役場の声掛けにより、高校生が地域課題解決に向けた政策提言の発案に取り組む。その実行に向け、大学も巻き込んだ「高・大・官連携プロジェクト」を町役場がプロデュースした事例。（関係図参照）
- 活動資金にはクラウドファンディングを用いている。主に大学生がPRを行い、最終的には目標を超える額の資金回収を達成した。

●立ち上げの経緯

- 人口減少・若者の流出という課題を抱えていた城里町は、H27年（2015年）の地域版総合戦略の政策提言を高校生に考えてもらうという話を高校に依頼した。
- 翌年度、高校側が町を盛り上げる施策を高校生に実践させたいと町役場に呼びかけ、地元の常磐大学も加わり「高・大・官」の連携プロジェクトがスタートする。
- H28年（2016年）に1年かけて地域の資源・課題についての勉強をしながら、6つの施策を考案、そのうちの1つであった「ダムカレー」を翌H29年（2017年）に具現化していく。

●活動資金について

- 「ダムカレー」の開発資金の確保にはクラウドファンディングを利用。
- 高校生の代わりに常磐大学の学生がクラウドファンディングのPRをサポートした。そのため大学の夏休み期間を資金集めに当てられるようにスケジュールを組み、大学生が関わっているプロジェクトの現場や町のイベント等でチラシを配布する等のPRを行った。
- 始めは、クラウドファンディングの仕組みが理解されず一部批判の声も聞かれたが、反響はとて大きく、最終的には金額も伸びて目標を超える額の資金を調達できた。
- クラウドファンディング自体が広告となり、「ダムカレー」を食べに全国から人が町を訪れるようになった。

活動について

▶活動初期～現在の活動

- H27年（2015年）に、町役場からの声掛けで高校生が政策提言を考案。「総合的な学習の時間」を使い、役場職員のサポートを受けながら当時の2年生が課題に取り組み、実際に「保育料の無料化」が政策に取り入れられた。
- H28年（2016年）には、学校側から「高校生が考えたことを高校生が実践するところまでやりたい」と町に呼びかけ、大学も巻き込んだ「高・大・官」連携プロジェクトが始まる。当時の2年生を6グループに分け、大学生も参加しながらワークショップ形式で実施。「ダムカレー」をはじめ全部で6つの政策提言を考案した。
- H29年（2017年）には「ダムカレー」の具現化に向け、大学の他に地域おこし協力隊等も巻き込みながら活動。資金はクラウドファンディングで調達。開発した「ダムカレー」は、町内の健康増進施設ホロルの湯において販売されている。
- H30年度は、茨城県の「観光まちづくりコンテスト」に挑戦する等、2年生の「総合的な学習の時間」を使った取組は継続・拡大している。

▶生徒への影響

- 町の現状、課題を調べる中で、自分の課題として町を魅力あるものにしていこうという意識が育った。活動を通じて見聞きしたことが、自分たちの中に蓄積されていると感じられる。
- ワークショップを重ねるうちに、生徒のプレゼンテーション能力の成長が感じられた。
- コミュニケーションが苦手な生徒たちの力を伸ばすという意味で、プラスに働く取組である。



ダムカレー販売開始時の広告



「藤井川ダムカレー」